

『ちからいっぱい やさしさいっぱい』

藤枝市立大洲小学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修	
4月	<p>「希望・出発」ステージ</p> <p>～新しい仲間と仲良くしよう～ ○1年生を迎える週間</p>	<p>【学活】人間関係づくりプログラム①出会い</p> <p>各学級やわくどき活動で温かな人間関係作りの活動</p> <p>・なかよくなるうピンゴ・ほどけるかな・みんなでゲーム等</p>	<p>【職員会議】</p> <p>共通理解、年間計画</p>	
5月	<p>○わくドキ活動①</p> <p>○運動会</p>			<p>【学活】人間関係づくりプログラム②聴き方</p>
6月	<p>「挑戦」ステージ</p> <p>～自分の力を伸ばそう 正しいと思ったことはやってみよう～</p> <p>○わくドキ活動②</p> <p>○児童集会Ⅰ</p> <p>○わくドキ活動③</p>	<p>【学活】人間関係づくりプログラム②自己表現</p> <p>個々の力をつけ、集団の力を高める活動</p> <p>・にっこりことばにへんしん・元気の出る聴き方・やさしい頼み方・どんなきもち等</p>	<p>【夏季研修】</p>	<p>・打ち合わせ等でのピア・サポート活動についての呼びかけ</p> <p>・学年研修</p>
7月				
8月	<p>・家庭や地域でピア・サポートを見つけよう。</p>	<p>◎学校生活アンケート</p>		
9月	<p>○わくドキ活動④</p>		<p>個々の力をつけ、集団の力を高める活動</p> <p>・にっこりことばにへんしん・元気の出る聴き方・やさしい頼み方・どんなきもち等</p>	
10月	<p>「協力」ステージ</p> <p>～だれとも仲良くしよう 友だちのがんばりを認めよう～</p>	<p>友だちの成長を認め、感謝する気持ちを育てる活動</p>		
11月	<p>○児童集会Ⅱ</p>			
12月	<p>○わくドキ活動⑤</p> <p>○音楽集会</p>			
1月	<p>「ありがとう」ステージ</p> <p>～人のために行動しよう感謝の気持ちを伝えよう～</p> <p>○わくドキ活動⑥</p>			
2月	<p>○ありがとうを伝える会</p> <p>○ありがとうの会・わくドキ活動⑦</p>			
3月	<p>☆ピア・サポート便り発行。</p>			

・「温かな聴き方・話し方」「ぼかぼか言葉」等の指導

・生活委員会を中心としたあいさつ運動

・本校特別支援学級児童との交流

・幼稚園との交流（一年）

・特別支援学校との交流（四年）

・クラブ活動（四～六年）

1 本校のピア・サポート

本校は、教育活動の絶対的な基盤を「教職員と子供の豊かな人権意識感覚」と明示している。その中に、人間の「暖かさ」「優しさ」等を価値付け称揚する「ふわぼか」＝「ピア・サポート」の心を本校の柱として位置づけている。三指導部は、各領域でピア・サポートの目標を掲げ、各々に取り組んでいる。生徒指導部では、思いやりの心を育てる～かかわりあう力を育て楽しい学校をつくる～、学習指導部では、思いを伝え合う授業～子供たちが表現したくなる授業づくり～、特別活動部では、子供の主体的な活動～子どもから子供へと発信する特別活動～このように、どの指導部でも、子供が自覚している「ふわぼかな心」を育てる目標をしっかりともち、子供たちがこれを大洲小の誇りととらえ日々活動に取り組んでいる。

2 特徴的な活動

大洲小学校の全ての活動を支える「ふわぼかの心」は、日常生活に常に浸透している。一人一人の子供の存在を認めることで、それぞれが自分らしさを発揮することができ、子供たちの自尊心も高まると考える。そのような気持ちが友達のために何かをやりたい、クラスのために、更に学校のためにという児童の心が育っているのだと思う。学級での生活や授業を通して、友達と協力し考えを出し合うことや、自分達で出した課題を解決すること、相手の伝えたいことを理解しようと温かな気持ちで聴くことなどが普段の生活の中で自然にできている児童が多いと感じる。

(1)【わくドキペア活動】

本校では、1・6年、2・5年、3・4年のペア同士で、月1回(コロナの感染状況をみて、本年度はかなり回数が減っている)昼休みに遊ぶ時間を設けている。上級生が下級生に楽しんでもらおうと、遊びの内容を考えたり積極的に関わったりすることで、互いの信頼関係が深まる姿が見られている。決められたペア同士や設定された時間だけでなく、日常の生活の中でもけがをした下級生を上級生が保健室に連れてくる姿がよく見られ、優しい声かけもしている。また、6年生が修学旅行に行く際に、ペア学年の1年生がメッセージを書いてお守りにしてプレゼントをしたり、6年生が、自然教室での楽しかったことやアドバイス、応援の言葉をタブレットのコラボノートの寄せ書きの機能を使って5年生に贈ったりするなどの交流も行われた。ペア学年だけではなく、様々な行事を通しての交流が広げられた。これらの活動を通して、上級生は下級生を思いやる心を、下級生はピア・サポート(ふわぼか)をする上級生に憧れる気持ちが育まれている。

(2)【児童集会・あいさつ運動】

本校では「ふわぼか」という言葉をとっても大切にし、あたたかい行動や言葉かけに対して「ふわぼかだね。」とお互いを認め合っている。今年度も「ふわぼか」を合い言葉にしたピア・サポートの実践を児童会中心に行った。廊下には、ふわぼかのレベルを表すポスターを掲示し、子供たちが意識できるようにしている。本年度、児童会では「ふわぼか」な気持ちを行動に表すことに力を入れた。「ふわぼか」な心を広めるために様々なキャンペーンを企画し、子供たちが楽しみながら「ふわぼか」な活動をし、たくさんの温かな気持ちを行動に移すことができた。

また、中学校との交流で、中学生が小学校に来て児童会の子供達と一緒に校内を回りながらあいさつをした。中学生があいさつをしてくれることで、普段よりも大きな声で笑顔であいさつをすることができた。

3 本年度の成果と来年度に向けて

○本年度の成果

児童会が学校全体の「ふわぼかな心」をより高めようとの提案に対して前向きに協力して、全校の児童が取り組んでいる。学校の課題を児童が見つけ自覚することで、自分達で解決策を計画し、実行することができた。そして、その解決策に対して友達と関わりながら主体的に取り組み、思いやりの溢れる雰囲気につながっていると考えられる。子供の自己肯定感を高めるために、友達に認められた自分の良さをふり返ったり、自分の言動の価値づけを行ったりすることで、ピア・サポート活動がより機能すると考える。また、地域や家庭でもピア・サポートの考え方や活動が広まるよう今後も児童会中心に発信していきたい。